

# 報 館 おおなだ

## おかコミに参加してみませんか？



令和 4 年 8 月から子ども達の居場所づくり及び多世代交流、異文化交流を目的として立ち上げられました。

活動内容として、子ども達が保護者の方やボランティアの方々とカードゲームや体育館で遊んだり、自由な空間として利用しています。



交流の様子

ボランティアで参加しているメンバーには信州大学の学生さんや松商学園高校インターアクトクラブ（高校生のための奉仕クラブ、様々なボランティア活動をする部活）のメンバーもいたりして、顔

最後に希望者と一緒に夕飯もとりまします。その食事には地域から提供された食材を使ったり海外出身の方がその国の料理を作ったりしてくれています。

そんなおかコミですが主催者の方にお話を伺ったところ、実際には子ども達とその保護者の方の参加が大半で多世代交流がうまくできていない、地域の方が食材を届けて



みんなで夕ごはん

くれるのはありがたいが交流に結びついていないのでいろんな方に参加していただき交流を広げていきたいと仰っていました。

学生ボランティアの声として「イベントを企画し実行してみたい」「子ども達と遊ぶことで新たな発見がありとても楽しい」「高齢者との交流が少ないのが残念」といったお話を聞くことができました。

参加した子ども達も 2 回以上参加した子が多数で、次回も参加したいですか？の問いかけに「参加したい」「予定が合えば参加したい」と、とても楽しみにしている様子が伝わりました。

(取材・文 浅輪委員)

### おかコミ詳細

- ・日時 毎月第3土曜日14時～18時半 (17時半ころより夕食) ※時間内であれば途中の入退は自由です。
- ・場所 岡田公民館、福祉ひろば及び体育館

詳細は公民館もしくは福祉ひろばに問い合わせてください。

- ・岡田公民館 ☎ 46-2313
- ・岡田地区福祉ひろば ☎ 45-5168



### 歴史に親しむ講座

江戸時代に整備された岡田宿には、本陣をはじめ、脇本陣・旅籠屋・茶屋など約六〇軒の家並みが並んでいた。宿の南の端は現在の地藏尊の所で、その南より浅間温泉へ続く湯道が分か

れている。旅人の多くは温泉のある浅間の宿に魅力を感じたらしく、宿泊客をめぐり浅間ともめていた。松本藩が調停に入ると説明があった。

6月23日に行われた岡田公民館主催「歴史に親しむ講座①」(岡田宿を知ろう)は、岡田公民館から出発し、そんな話から始まった。講師は岡田歴史研究会の宇佐美映之さんで、その語り幅広い知識に魅了された。

今回講師を派遣していただいた岡田歴史研究会は岡田公民館サークル活動の一つで、会員15人、二カ月に一回に会が開かれる。活動内容は文化財の調査研究・保全・啓発などと聞いた。

岡田宿をさらに北上し、岡田宿公園で、加助一揆への岡田の人たちのかかわり・松本藩の領土縮小の理由など興味ある話が聞いた。その後、西の夜通道を通り大願寺跡へと進み説明を受けた。以前より岡田に寺がないのを不思議に思っていたが、その謎が一部解けた。



(取材・文 尾曾委員)

硬に進められた。それは松本藩最後の藩主で藩知事であった戸田光則によるらしい。なぜ強硬であったか、その理由が意外だった。現在、大願寺の面影は全くないが、本堂は島内の高松寺に移転され残っている。

最後に岡田宿の北の端、枅形まで進み、番所跡・江戸路への分岐・蓮台場の由来などの話を聞き終りとなった。

江戸の将軍と異なり、松本の藩主の話はほとんど知らない。松本藩の領土が縮小され番所が岡田に移される原因となった水野忠恒が江戸城松の廊下で起こした事件とは何だったのか、さらに知りたくなった。

すべては紹介できないが、講座の雰囲気は伝わっただろうか。次回第2回目の計画もされているようだ。次はどんな話が聞けるだろうか。期待が高まる。

# 岡田ぼくとニュース

## 林檎の里神沢

● 神 沢 ●

神沢は芥子坊主山からアルプス公園に至る傾斜地を流れる西大門沢川に沿って神沢池までの東側一帯に位置します。

昔、塩倉集落に〈塩倉〉があった頃、東側尾根付近に〈塩釜神社〉が在り、その傍らを流れることから神沢川と呼ばれた川のほとりにできた集落を神沢と言うようになったと考えられています。神沢川は塩倉池が築堤されて流れが変わり、現在は西大門沢川の名称になっています(注)。上流の水が湧出る傾斜地に御不動様が祀られており、又神沢池畔には秋葉様が祀られていて毎年祭事を行っています。

神沢の西側の傾斜地には林檎と葡萄園が、又東側には水田が広がっています。週末祭日はアルプス公園を訪れる人も多く、林檎の季節は露店販売が人気です。林檎は岡田神社と組み



合わせた岡田地区のロゴマークにもなっています。

住民には彫刻・絵画・書道・写真・手芸等、趣味特技を持つ方が多くみえます。公民館の文化活動も盛んです。読書会は昭和四十六年島崎藤村の作品から始まり、現在まで六人の会員が毎月読書会を開いています。又、絵手紙の会は十年間七人の会員が毎月活動しています。それらの活動を通して知識、見識を高め親睦を図っています。

神沢周辺はのどかな田園地帯で散歩されている方が多くみられます。いつまでもこの環境が続いて欲しいと思います。(注)『先人の生きざま』岡田再発見』より。

(神沢 伊藤 修)



読書会会員 6月20日公民館読書会にて

## 第1回自然に親しむ講座 in上高地



今年も、岡田公民館主催の新緑の上高地ウォーキングが6月1日(木)に行われました。天気にも恵まれ、河童橋～明神池(昼食)～明神～バスターミナルまでの8Km3時間コースでした。上高地の案内人・牛丸工さんのお話を聞きながら、20名の参加者にとって、まさに清々しい上高地の自然に親しんだ一日となりました。

河童橋から梓川の右岸を歩いてすぐ、ここが穂高連峰、明神岳を見上げる最高のビューポイント、わくわく感満タンです。林間に入ると、幹の太さが1mをこえ、枝ぶりよく四方に何mも張り出すテンカラ(天然のカラマツの通称)やイチイの巨木に元気をもらいました。ところが、要注意、猿のう〇こが散策路のいたるところにあり、景色に気をとられると踏んでしまいそうでした。恨めしく思いながらも、帰り道、3匹の子猿たちのじゃれ合う姿に癒されました。牛丸さんがぜひ見てほしいと話していた、明神館の前で咲くヤマシャクヤクの、人知れず恋をする乙女のように清楚で可憐だと言われる白い花に感動しました。

午後は自由行動。一緒に参加した本山さんは健脚を発揮し、河童橋から足をのぼしてウェストン碑まで散策して、万歩計は16,000歩を記録していました。澄んだ空気と川の流れ、ウグイスの鳴き声に包まれ、ニリンソウ、アオチドリ、イワカガミなどの高山植物を教えてもらいながら、気持ちよく歩くことができました。

(体験取材 小林(秀) 委員)

今年は、フキノトウが早くから顔を出していたので、ふき味噌や天ぷらにしてみました。ほろ苦い春の味は、なぜか幼いころを思い出させてくれた。

祖母は、小学生だった私を連れて、近くの山にワラビ採りに行った。春の山は、新緑がきれいで、風が気持ちよく吹いていた。秋には、キノコ狩りにも一緒にいった。山の中は、薄暗くて、じめじめしていて、なんだか不気味だった。それを知ってか知らずか、自分のみ

### 祖母との思い出

伊深 松山 秋子

また、よく小豆を煮て、それを小麦粉の皮に包み、蒸しまんじゅうを作ってくれた。それも祖母を思い出すきっかけの一品である。家族に気を配り、いつもこまごまと働いていた祖母の姿を、

最近、なつかしく思い出す。祖母が亡くなって、何年になるだろう。思ってもいなかった戦争が起こり、恐ろしい映像が毎日テレビで報道されている。また、命の危険にさらされるような感染症がまんえんしたり、地球規模で起こっている温暖化の影響

生活雑記